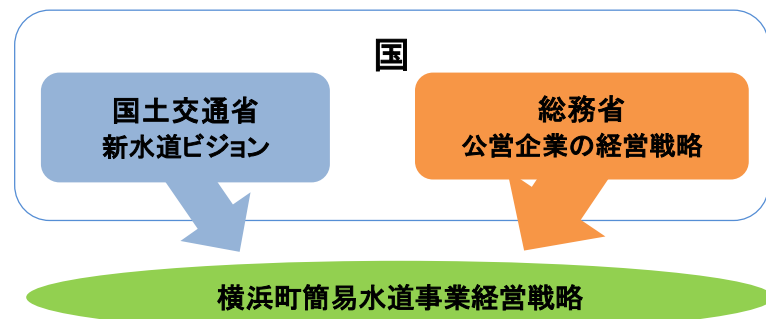


【概要版】

横浜町 簡易水道事業 「経営戦略」

1. 策定趣旨と位置づけ

「横浜町簡易水道事業経営戦略」とは、横浜町簡易水道事業が目指す中・長期的な事業運営の方針を示したものです。また、国土交通省「新水道ビジョン」が示す水道の理想像「安全な水道」・「強靱な水道」・「水道サービスの持続」さらには、総務省が策定ならびに議会・住民への公表を求めている「公営企業の経営戦略」の内容を併せ持つものとして策定しました。



2. 計画期間

令和7年度から令和16年度までの10年間とします。概ね5年毎に事業の進捗状況について点検・評価を行い計画を見直します。



3. 水道事業を取り巻く環境

人口減少社会の到来

横浜町の給水人口	
平成26年度 2014 (実績)	3,296 人
令和6年度 2024 (実績)	3,246 人
令和16年度 2034 (予測)	2,821 人

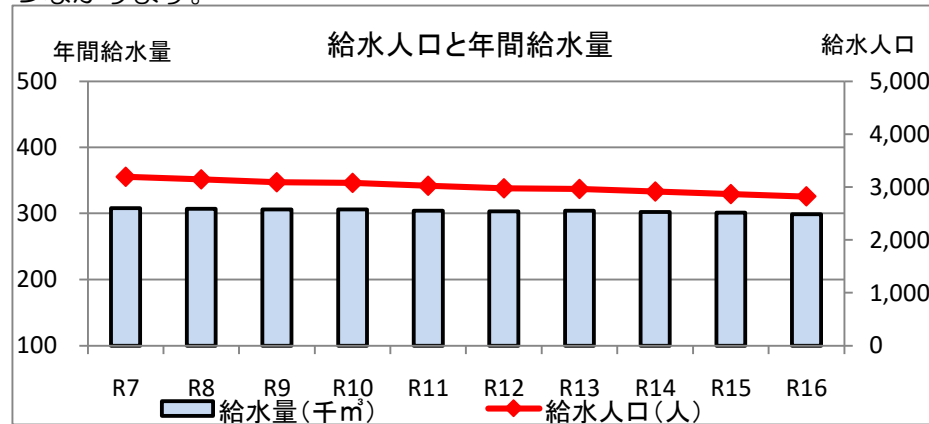
※横浜町人口ビジョン（令和3年3月）による推計参照

4. 現状と課題

1) 水需要の状況

水需要は人口減少等により年々減少しており、今後もこの傾向は継続するものと予測されます。

水需要の減少は、給水収益の減少や施設稼働率の低下につながります。



2) 水道施設の概況

水道施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ○横浜配水池<横浜> (浄水棟を含む) ○明神平浄水場<松栄> (取水施設と配水池を含む) ○第二明神平浄水場<烏帽子> ○第二明神平配水場<烏帽子>
水道管路 (布設経過)	総延長L=57.59km 40年以上 L= 5.42km 39年未満 L= 52.17km

3) 水道施設の老朽化

町の水道施設は、昭和58年の創設から平成年代に建設されたものが多く、おおよそ40年が経過しています。20年後には、大多数の固定資産が老朽化資産となっています。

本計画期間内（R7～R16）において、施設等については計画的に機械・電気設備の補修・更新および耐震化を進めております。管路については老朽化管路の一手手前の経年化管路となっており、耐用年数の面で機械・電気設備を優先させ、管路は次の10年で、更新を図ります。

財政面を考慮した将来の施設更新ペースを検討することが課題になってきます。

5. 将来像と目標

基本理念

「安心で確実な水道サービスを継続して町民に届けます」



1) 安全 【安全で安心な水道水の確保】

- ・水源の安全管理の実施
- ・原水及び浄水水質の確実な監視の継続
- ・必要水量の安定的な確保

2) 強靱 【安定した給水の確保】

- ・老朽化施設の効率的な更新の実施
- ・水道施設の耐震化の推進
- ・危機管理マニュアルに基づく計画的な訓練等の実施

3) 持続 【効率的な事業経営の実現】

- ・事業経営基盤の強化
- ・維持管理コストの削減
- ・人材の育成と技術の継承

6. 財政収支の見通し

将来の更新需要に対応するため、内部留保資金や建設改良積立金の運用・充実など、中長期的にわたる投資に見合う資金を確保し、更には必要に応じて料金改定等も視野に入れ、的確に財政計画を見直し、経営面においても効率的な事業運営を進めていきます。

○企業債残高の推移

R6	R11	R16
54,616(千円)	236,723(千円)	174,326(千円)

7. 進捗管理

「安全・快適な水を安定的に供給し、利用者が信頼し続ける水道事業」を目指すため、PDCAサイクルにて、本計画の検証・分析・見直しを適宜行っていきます。

